令和７年度　第２回和泊町立中学校部活動地域移行推進協議会　要約

日　　時：令和７年 12 月 12 日（金）　19 時～

場　　所：役場１階会議室　結ホール

出席委員：池田会長，平副会長，白峯委員，池田委員，川口委員，早﨑委員

永野委員，大福委員，東委員　　※欠席：西谷委員，川添委員

事 務 局：永井局長，田代次長，名越

１　開　会

２　協議事項

(1) 中学校部活動の現状について

(2) 部活動地域展開（国のガイドライン）について

(3) 部活動拠点校方式について

(4) その他（指摘事項）

現状

部活動指導員の配置状況

令和７年度和泊町立中学校部活動指導員名簿に基づき，和泊中学校では 19 名，城ケ丘中学校では２名が配置され，部活動に取り組んでいます。

地域連携の実施

国が地域連携推進期間と定める令和５～７年度において，本町は平日も含む地域連携に既に取り組んでいます。

指導員報酬の状況

指導員報酬の支給額は 12 月現在で 4,090,200 円であり，当初予算 5,127,000 円から増額していくことが見込まれています。

活動時間の基準

部活動の指導時間については，当初からのガイドラインで平日は１日２時間程度以内，休日は１日３時間程度以内，休日は週２日以上設けることが定められています。

進捗

地域展開の期間変更

当初計画では令和８年度からの完全移行を目指していましたが，国の制度見直しにより計画が変更されました。

前期改革実行期間の設定
令和８年度から令和 10 年度までの３年間が前期の改革実行期間と位置づけられ，この期間で休日の部活動の地域展開を進める方針です,。

拠点校方式の導入検討
在籍校に希望する部活動がない生徒への救済措置として，拠点校方式（特定の部活動を一つの学校が受け入れる方式）の導入が進められており，特に男子バレーボール部からの参加希望があるため，早い時期に実施できるよう協議されています。

課題
財源確保の課題
指導員報酬の支給額が増額していく見込みがありますが，国や県からの追加補助金は既に見込めない状況です。
今後，報酬が増加した場合，その増額分は本町の一般財源のみで賄う可能性がある点が大きな課題です。

費用負担ガイドラインの未提示
国は受益者負担と公的負担のバランスに関する新たなガイドラインを今冬頃に示す予定でしたが，まだ示されていない状況です。この目安がないため今後の費用負担のあり方を検討できません。

指導体制・事務処理の課題
県の監査において，部活動指導員と顧問の同時指導は補助対象外となるという指摘がありました。ただし，宿泊を伴い長時間の移動や複数の交通機関の乗り継ぎを要する島外地域への大会引率・指導は例外的に認められます。

補助金関連の煩雑な事務処理（旅費やバスの経路調査など）が教員の大きな負担となっており，指導員への移行が望まれています。

活動時間の制限運用課題
陸上駅伝部の練習において，朝１時間の駅伝練習後に夕方に別の部活動で２時間練習することは，平日の活動時間「２時間程度以内」という国のガイドラインに反するため，実施できないと指摘されています。

拠点校方式導入の懸念
拠点校方式は特定の部活動がない生徒にとっての救済措置として良いものの，これが全般に適用されると，他の部活動からも同様の要望や拠点校への圧力が発生する懸念があります。特に生徒の受け入れにより，受け入れ校のレギュラー争いなどに影響が出る可能性も懸念されています。

今後
長期的な改革実行期間
今後，令和８年度から令和 13 年度までが改革実行期間とされ，この間に原則全ての部活動において地域展開の実現を目指す方針です。

地域クラブの認定制度
自治体（市町村等）が地域クラブを認定し，大会参加や財政支援が認められる新たな認定制度が盛り込まれる予定です。

拠点校方式の実施
男子バレー部など，人数が足りず部活動がない生徒の救済措置として拠点校方式の導入を速やかに進めます。在籍校と拠点校，保護者間で事前に合意形成を行うことが絶対条件とされます。

事務局の受け皿
地域展開を進めるにあたり，当面は町教育委員会の生涯学習係が事務局となり，受け皿として調整・実施していく予定です。

費用負担の検討
国からの新たなガイドライン（公的負担と受益者負担の目安）を確認しながら，保護者負担（年 3,000 円程度を想定）や行政負担のバランスについて検討していく必要があります。

地域連携の継続
地域クラブへ移行しても，中学生に対しては学校との連携を基本とし，生徒指導や学習への影響がないよう注意を払う必要があります。

部活動の地域展開という改革は，船が新しい港（地域クラブ）を目指す航海に例えられます。
この航海は長期間（６年間）に及びますが途中，燃料（財源）の確保や航路図（新たなガイドライン）がまだ完全に示されていないという困難に直面しながらも，子どもたち（乗組員）の機会を最優先し，試行錯誤しながら進められている状況です。